

# 『 禅のころ - 曹洞宗 - 』

## 数珠

平成28年11月第3週放送

数年前より、手に数珠のようなブレスレットを巻いている方を見るようになりました。

形は数珠そのもの。数珠ブレスレットなどの名前で売られている場合もあります。みなさんファッションとしてはもちろんの事、「パワーストーンのエネルギーを受け取る」といった事からも身につけているようです。アクセサリーやお守りを身につける感覚でしょうか。

「数珠」は、「念」ずる「珠」と書いて、念珠ともいい、菩提樹をはじめとした草木の実や木材、水晶などの石や珊瑚などでつくった珠に糸を通して輪にした物で、本来は仏さまを礼拝したり、念仏を唱えるときに手にかけて用いるものです。お唱えの数を数えるために用いられてもいました。

古代インドのバラモン教において用いられたものが仏教に取り入れられたとも言われ、日本では、七三六年、天平時代に来日した僧侶が聖武天皇に献上した菩提樹の数珠がはじめとされています。

数珠の珠の数は百八を基本として、半分の五十四、四分の一の二十七、ほかに四十二やその半分の二十一などがあります。百八は煩惱の数に対応していますので、これによって煩惱を断つことを表しているともいわれます。

曹洞宗を含む禅宗の修行道場では、むやみに数珠をすり合わせて音を出すことをいまいめています。しかし、多くの寺院の日常の法要では使用されていますし、喪儀やご法事に参列する皆さんは必ずといって良いほどに数珠を携えて臨んでいます。様々な法要は、仏さまと「縁」を結ぶ場でもあります。数珠はその「縁」を結ぶ「輪」であると考えられるでしょう。

何気なくオシャレだからと数珠ブレスレットをしている方や、不安を抱えお守りとして数珠ブレスレットをしている方は、一歩進んでお寺にお参りをしてみてもいかがでしょうか。そして、ご本尊さまの前で、今の自分を見つめ直してみてください。「数珠」が結ぶ仏さまとの「縁」を感じる事ができるでしょう。

— 終 —